

上級クラス Advanced Class	A-R
<p><u>クラス名 Title</u></p> <p>じょうきゅう ろんぶんこうどく 上級 論文講読 Advanced: Reading</p>	<p>プレースメントテスト [ない] めんせつ 面接 [ある。ガイダンスをかねる]</p>
<p><u>講師 Instructor</u></p> <p>ながやま ひろあき 長山 浩章 (NAGAYAMA, Hiroaki)</p>	
<p><u>教科書 Textbook</u></p> <p>にほん つく てつがく ふじもとたかひろ にっぽんけいざいしんぶんしゃ 『日本のもの造り哲学』(藤本隆宏) 日本経済新聞社 (2004) かつがん かつがく やすおかまさひろ けんきゅうしょ 『活眼 活学』(安岡正篤) PHP 研究所 (2008)</p>	
<p><u>授業の進め方 Content of the class</u></p> <p>こうどく ちゅうしん にほん せいぞうぎょうおよ にほん けいえい きそちしき かんが かつ ・講読を中心に日本の製造業及び日本の経営についての基礎知識と考え方を まな 学ぶ。 がくせい りんどく あと けいざいようご はいけいちしき かいせつ おこな ・学生が輪読をした後、経済用語や背景知識について解説を行う。 ひつよう おう えいぶんわやく しゅくだい だ ・必要に応じて英文和訳の宿題を出す。</p>	
<p><u>到達の目標 Goals of the class</u></p> <p>だいがくいん にゅうし ごうかく にほんごりよく しゅうとく ほ 大学院の入試に合格する日本語力を習得して欲しい。</p>	
<p><u>評価の方法 Assessment</u></p> <p>かい しゅつせき そうごうてき ひょうか テスト2回と出席などによって総合的に評価する。</p>	
<p><u>その他の注意 Miscellaneous</u></p> <p>なんど たか ようご かいせつ ようやく はいふ じゅんび 難度の高い用語の解説とポイントをまとめた要約を配布するのでテスト準備を すること。</p>	

上級クラス Advanced Class	A-R/COMP
<p><u>クラス名 Title</u></p> <p>じょうきゅう ぶんしょうほう 上級 文章法 Advanced: Reading / Composition</p>	<p>プレースメントテスト [ない] めんせつ 面接 [ある。ガイダンスをかねる]</p>
<p><u>講師 Instructor</u></p> <p>もり まりこ 森 真理子 (MORI, Mariko)</p>	
<p><u>教科書 Textbook</u></p> <p>はいふ プリント配布</p>	
<p><u>授業の進め方 Content of the class</u></p> <p>にほんぶんか にほんしゃかい にほんじんろん げんだいぶんか あつか さまざま ぶんしょう 日本文化・日本社会および日本人論や現代文化を扱った様々なスタイルの文章を クラス全員で読み進める。 よ あとかなら とうろん じかん じぶん いけん はっぴょう よ すす さい 読んだ後必ず討論の時間をとるので、自分の意見を発表すること。読み進める際、 ひつよう かくじん はつおん 必要があれば、各人の発音をチェックすることがある。 ひと かい こうどく とうろん おこな ご 一つのテーマにつき2-3回の講読・討論を行い、その後テーマにそったレポー ていしゅつ トを提出する。 ていしゅつ かくじん かなら くわ へんきやく せつきよくてき 提出された各人のレポートは必ずコメントを加え返却するので、積極的に ぶんしょう か れんしゅう 文章を書く練習をしてもらいたい。 どっかいほう なんど たか ぶんしょう どっかいりよく ようきゅう はっぴょう さくぶん なお、読解法では難度の高い文章の読解力も要求されるが、発表や作文では かくじん げんざい かくじつ あ もくひょう 各人の現在のレベルを確実に上げることを目標とする。</p>	
<p><u>到達の目標 Goals of the class</u></p> <p>こうぎ りかい ひつよう じょうきゅう にほん ごぶん どっかいのうりよく たか じぶん 講義を理解するために必要な上級レベルの日本語文の読解能力を高め、自分の いけん あやま つた こうとうひょうげんのうりよく ぶんしょうか さくぶんのうりよく 意見を誤りなく伝えることのできる口頭表現能力や、文章化する作文能力を やしな 養う。</p>	
<p><u>評価の方法 Assessment</u></p> <p>いちがつき すく かい かだい ていしゅつ さいしゅう き 一学期に少なくとも1回の課題レポートを提出し、最終レポートを決められた きじつ か 期日までに書くこと。 じゅぎょう しゅつせき こうどく ぎろん さんか 授業に出席して、講読・議論に参加すること。 せいせきはんてい そうごうひょうか おこな 成績判定はこれらの総合評価によって行う。</p>	
<p><u>その他の注意 Miscellaneous</u></p> <p>はいふ ぶんしょう まえ かなら め とお ぎもんでん あき 1. 配布された文章は前もって必ず目を通し、疑問点を明らかにしておくこと。 さんこうとしょなど じゅぎょうちゅう し じ 2. 参考図書等は授業中に指示する。</p>	

上級クラス Advanced Class	A-R/G(CJ)
<u>クラス名 Title</u> <small>じょうきゅう ぶんごぶんこうどく</small> 上級 文語文講読 Advanced: Reading / Grammar	プレースメントテスト [ない] <small>めんせつ</small> 面接 [ある。ガイダンスをかねる]
<u>講師 Instructor</u> <small>もり まりこ</small> 森 眞理子 (MORI, Mariko)	
<u>教科書 Textbook</u> <small>はいふ</small> プリント配布	
<u>授業の進め方 Content of the class</u> <small>ひょうじゆんにほんご しゅうとく お おも せんこう ぶんごぶん よ ようきゅう がくせい</small> 標準日本語の習得を終え、主に専攻で文語文を読むことを要求される学生に <small>たい ぶんご か ぶんしょう と あ ぶんぼうせつめい くわ き そこうどく おこな</small> 対して、文語で書かれた文章を取り上げ、文法説明を加えながら基礎講読を行 <small>めいじじだい にほん ぶんがく ぶんか れきし ほうりつ かん ぶんしょう ちゅうしん じゆんじこうどく</small> う。明治時代の日本の文学、文化、歴史、法律に関する文章を中心に、順次講読 <small>よてい ふくざわ ゆきち もりおうがい なかえちやうみん ぶんしょう あつか</small> していく予定である。これまでに、福沢諭吉、森鷗外、中江兆民などの文章を扱 った。	
<u>到達の目標 Goals of the class</u> <small>きほんてき ぶんごぶん よ ぶん い み りかい てきせつ げんだいご お か</small> 基本的な文語文を読み、文の意味を理解し、適切な現代語に置き換えることができ る。	
<u>評価の方法 Assessment</u> <small>しゅつせき じゅぎやうさんかたいど かだいていしゅつ さいしゅう ひょうか</small> 出席、授業参加態度、課題提出、最終テストによって評価する。	
<u>その他の注意 Miscellaneous</u> <small>おも じんぶんけい がくせい たいしやう ぶんや がくせい じゅこう</small> 主に人文系の学生を対象とするが、どの分野の学生でも受講できる。	

上級クラス Advanced Class	A-P/DIS
クラス名 Title <small>じょうきゅう けんきゅうはっぴょう しつぎ おうとう</small> 上級 研究発表・質疑応答 Advanced: Presentation / Discussion	プレースメントテスト [ない] <small>めんせつ</small> 面接 [ある。ガイダンスをかねる]
講師 Instructor パリハワダナ ルチラ (PALIHAWADANA, Ruchira)	
教科書 Textbook プリント配布 <small>さんこうとしょ だいがく りゅうがくせい ろんぶん しゅつぱん</small> [参考図書:『大学と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)、『トピ <small>にほんご そうごうえんしゅう さが はっぴょう じょうきゅう</small> ックによる日本語総合演習—テーマ探しから発表へ—上級』(スリーエーネッ <small>だいがく だいがくいんりゅうがくせい にほんご ろんぶんさくせいへん</small> トワーク)、『大学・大学院留学生の日本語4 論文作成編』(アルク)]	
授業の進め方 Content of the class <small>どうにゅう もんだいていき もち ろんきょ けつろんていじ てんぼうていじ けんきゅう</small> 導入、問題提起、データを用いた論拠、結論提示、展望提示などといった研究 <small>はっぴょう かくぶぶん もち にほんごひょうげん つか かた まなぶ かんしん も</small> 発表の各部分で用いられる日本語表現の使い方を学ぶ。関心を持っているテー <small>まくについて、アウトラインをサクセイ、はっぴょうげんこう か あ じっさい けんきゅうはっぴょう</small> マについて、アウトラインを作成し、発表原稿を書き上げ、実際に研究発表を <small>おこな じっせん とお にほんご ろんじゆつ な にほんご</small> 行う。実践を通して日本語の論述スタイルに慣れつつ、日本語のプレゼンテーシ <small>しゅうとく</small> ョンスキルを習得する。レジюме、スライドなどの作成や質疑応答の練習なども <small>おこな よてい</small> 行う予定である。	
到達の目標 Goals of the class <small>がくじゆつけんきゅうはっぴょう ひつよう にほんごひょうげん かくとくおよ</small> 学術研究発表のために必要な日本語表現の獲得及びプレゼンテーションスキ <small>しゅうとく どうたつもくひょう</small> ルの習得を到達目標とする。	
評価の方法 Assessment <small>はっぴょう じゅぎょうさんかどあい かだいていしゆつ しゅつせき きじゆん ひょうか</small> 発表、授業参加度合、課題提出、出席を基準に評価する。	
その他の注意 Miscellaneous	